

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1130.00	2022/3/7
High	1180.31	2022/3/9
Low	1053.00	2022/3/11
Close	1083.00	2022/3/11

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4175.00	2022/3/7
High	4394.00	2022/3/8
Low	3955.00	2022/3/10
Close	4083.00	2022/3/11

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	3029.00	2022/3/7
High	3431.00	2022/3/7
Low	2715.00	2022/3/11
Close	2820.00	2022/3/11

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	11190.00	2022/3/7
High	12703.00	2022/3/7
Low	10202.00	2022/3/11
Close	10633.00	2022/3/11



ニュースエクスプレス

原材料の価格高騰で新車価格、さらに上昇か

ニッケルやパラジウムなど自動車生産に使われる金属の価格高騰のため、米国内で新車の価格が近いうちに数千ドル単位で上昇する可能性が出てきている。S&P Global Mobilityのリサーチによると価格高騰は電気自動車に最も影響を与えるとみられる。というのは、テスラ社のモデルY、アウディ社のe-tron、メルセデス社のEQSなど、その他の電気自動車でも使われているバッテリーにはニッケルが使われているからである。例えばEQSの価格は10万2000ドルからに設定されているが、金属価格高騰のため1万1000ドルほど値上がりするとみられる。ディーラーの在庫が少ない車種はすでに値上がりしている。

コモディティ市場の動きによっては、今後3ヶ月以内にさらに自動車の販売価格は上がるとする専門家もいる。インフレで食品や家賃、衣料品、家電製品は値上がりしており、自動車価格も上がっている。3月10日、米国労働省によると2月の消費者物価は年率にして7.9%上がっており、1982年以来、最も急激な上昇率となっている。

<https://www.cbsnews.com/news/nickel-aluminium-ford-electric-car-prices/>

世界は数十年來のコモディティ危機に直面、MUFGLレポート

ロシアのウクライナ侵攻が引き起こしている市場の混乱で、コモディティ価格や食料品価格が高騰。金属価格も最高値を記録し、エネルギー分野は1973年の石油危機以来の危機に直面している。

1970年代の危機と違い、エネルギー、金属、農産物などあらゆる分野が影響を受けているのが重要な点であると、三菱UFJフィナンシャル・グループの三菱UFJ銀行は『Commodities Weekly』で指摘している。

「コモディティの巨人とも言えるロシアに対して、今回の紛争がどのような展開になるか全く予測ができなく、さらにエネルギー、金属、農産物の不足がいかに深刻かという点を鑑みると、我々は世界経済が後退に向かって静かに動いていると確信せざるを得ない。」

エネルギー：原油価格は、ロシアのウクライナ侵攻が続き、米国とイギリスがロシアからの石油輸入を禁じる自主的制裁に踏み切ったことで2008年以来最も高いレベルに跳ね上がっている。ロシアからの原油供給が減少する分をどうするかに焦点が集まっており、タイトな市場の均衡を取り戻すのは需要を押し殺すことしかないようだ。しかし原油価格よりもさらに極端に高騰しているのが、欧州の天然ガス価格で、今週は原油価格に換算するとバレルあたり600ドル以上に達した。

ベースメタル：現在コモディティ市場が直面している危機が最も顕著に現れたのは、今週 300% も上昇したニッケルだ。この異常事態はアルミニウム、銅、亜鉛などベースメタル全般を流動性リスクにさらすだろう。

貴金属：ゴールドは、原油価格の上昇に比例し安全資産への需要に応じて2000ドル/オンスを超え、プラチナとパラジウムは供給不足に乗じて高騰しているが、シルバーは上昇後に下落するかもしれない。

バルクコモディティ：鉄鉱石はウクライナ情勢、オーストラリアとブラジルの異常気象、中国の鉄鋼業の排ガス規制に支えられ高騰。

農産物：小麦とトウモロコシ価格は物流の中断、肥料などのコスト高、さらに作付け時期が迫るウクライナへの懸念から高騰。

<https://www.zawya.com/en/markets/commodities/world-facing-largest-commodities-crisis-in-decades-mufg-syxyuy8>

金も銀もプラチナも 全ての貴金属入った夢の合金 京都大が作製に成功

金や銀など8種類ある貴金属の全ての元素からなる合金を作ることに成功したと、京都大のグループが発表した。グループは「8種類全ての貴金属元素から合金を作ったのは、5千年に及ぶ合金作製の歴史で初めて」としている。水素を発生させる触媒としての活性が高いため、工業技術への応用が期待でき、化学メーカーや自動車メーカーとの共同研究も進行しているという。米科学誌にこのほど掲載された。

5種類以上の元素が均等に混在する合金は、ハイエントロピー合金（HEA）と呼ばれユニークな性質を持つとされるが実用例はまだ少ない。理学研究科の北川宏教授や白眉センターの草田康平准教授などのグループは既に、6種類の白金属からHEAを作製。今回は白金属に金と銀を加えた貴金属8種類でHEAを作製することを試みた。

グループは加熱の手順など合成方法を工夫して、8種類の元素からナノサイズの粒子状の合金作製に成功した。出来上がった合金の各元素の電子状態を調べると、同じ元素でも合金内の位置によって多様な状態となっていた。水素を発生させる電極触媒として、非常に高い活性を示した。

貴金属にどの種類の元素を含めるかには他の定義もあるが、今回は国内で最も一般的な8種類にしたという。草田准教授は「HEAの分野はまだ分からないことだらけ。合金をつくる元素の割合で性質にどんな変化があるのか、今後もさらに研究したい」と話す。

<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/746936>

Translated by JBMA Osawa KAZUKO

WPIC直近の活動

- ロシアへの制裁がPGM需給に与える影響とは？詳しくは「[2021年3月号プラチナ投資のエッセンス](https://platinuminvestment.com/files/438292/WPIC_Platinum_Essentials_March_2022%20(Russia%20impact%20on%20PGMs)_JA.pdf) ロシアへの制裁がPGM需給に与える影響」をご覧ください。
- 2021年のプラチナ余剰は38トンが予想されるが、2022年は新型コロナウイルスの影響および事業の混乱が次第に解消するため、47%の減少が予想される。詳しくは[2021年第4四半期のPlatinum Quarterly](https://platinuminvestment.com/files/541296/WPIC_PR_PQ_Q4_2021_20220309_JA.pdf)のプレスリリースをご覧ください。



(@wpicjapan)